

## 異文化と心通わせ

つくば通信

卷廿



先日、入学式を終えた季節になりました。

新年度を祝す大學生

入学、就職を迎えたお子さんが多いらしく、我が家はいくつもありますが、そぞの多くは正規に入学するございます。今年は特別な春になつたことと思いります。つくばはもう葉桜が開かれています。大学の教壇に立つ先生方が一般向けに定期的な講座を開設しているのです。人気漏れる光が気持ちいい

あるものは抽選も行な  
れます。  
私も現在の仕事に就いて  
2年目に筑波大学で一般  
向けの講座を受講しました。  
学生時代は卒業してから学校に戻るなどと考  
てもいませんが、

その先生の授業 枚のセピア色の始まりました。 画に出てくる その家族写真でこ 坊が祖父に抱き 围りを聞く若者 との幸せな日々 た。その後に書 たのは少年たち

業はあるーじいちゃんです」と。この写真から一連の家族写真は數十枚。それは映年にわたる同一の家族のものでした。祖父に抱かれた赤ん坊が喜ばれて誕生した。赤ん坊は成長して、両親たちの一枚でした。それを見せてくれた最初に「おじいちゃん」と名前を呼ぶ先生は学生たちの授業で

いる方や大学病院で治療中の患者さん、学生などまでのままでした。帰りに食事をして東の間の学生気分も味わうことができました。

席で見たがったものの、  
そんな中で今でもよく覚  
えていい授業があります。  
**看護学が専門の女性の**  
**先生の授業でした。**温か  
みのある笑顔で登場した  
その先生の授業はある一

# 忘れられない授業

とでも「私は」といってほんとうに残る授業でした。

当時、同じように授業に参加していた人たちには、会社帰りの老若男女や、ご自宅で子育てをされていらっしゃる方や大学病院で治療中の患者さん、学生としてまことにました。帰りに食事をして束の間の学生生活を分も味わうことができました。

キャンパスのある街、実は意外と面白い催物講座をやっていることがあります。通いたいけれど…全部行けないかも、その時間は無理がありもあきらめてしまったこともあります。また自分の生活に直接役に立つかどうかもわからぬせんが、「異なる視点をもつ」体験は毎日の生活に潤いを与えるように思っています。庄内のキャンパスや近くで催される講座などいろいろ申し込んでみしがかがでしょうが、

(福岡市田身) つーて、筑波国際センター・クリニック コーディネーターの